

組織目標評価報告書（平成25年度）

部局名： 評価センター

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	自己評価
①-1 目標	
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
②研究領域	自己評価
②-1 目標	
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
③社会貢献(診療を含む)領域	自己評価
③-1 目標	
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
④センター業務	自己評価
④-1 目標 (1)部局の諸活動の改善等に活用するため、部局現況分析評価についてマニュアル作成等の実施準備を行う。 (2)大学機関別認証評価における自己点検・評価を行い、自己評価書の作成を進める。 (3)平成24年度に行った中期計画進捗状況等の検証により明らかとなった課題を促進させる取組を行う。	<p>(1)部局現況分析評価 大学評価・学位授与機構の「第2期中期目標期間における教育研究の状況評価に関する実績報告書作成要領」やその説明会を踏まえてマニュアル等を検討し、部局現況分析評価実施要項の改正並びに現況分析評価報告書作成要領及び様式の作成を行った。 目標を上回る取組として、認証評価において必要となる学部・研究科における状況・取組の収集、部局における現況分析及び「部局と大学執行部との意見交換会」を一体で行うことができるよう学内スケジュールを立て、前倒して現況分析評価の実施を通知し自己点検を開始した。</p> <p>(2)大学機関別認証評価 平成26年度に受ける大学機関別認証評価に向けて、毎月、評価センター運営委員会認証評価ワーキンググループ(WG)を定例開催し、平成25年12月までに評価基準ごとに自己点検・評価作業を進めて自己評価書(素案)を作成した。 2月から3月にかけて、部局現況分析評価(教育領域)の実施と併せて、部局における評価基準による自己評価を加え、自己評価書(原案)をほぼ完成させた。</p> <p>(3)中期計画の促進 平成24年度に行った中期計画進捗状況の検証による課題を、4月開催の教育研究評議会において報告し、また、関係部署に通知した。 評価センター法人評価専門部会は、平成25年度計画実施状況の中間検証において、中期計画進捗検証による課題の進展状況を再検証し、実施部署にフィードバックした。 加えて、中期計画を着実に実施するため、平成26年度計画作成方針において、中期計画の進捗検証結果を踏まえるよう周知し、各所から提出された年度計画案に対して、同結果に基づいた点検・調整を行い万全を期した。 大学機関別認証評価に向けた自己点検・評価において、平成24年度に行った第三者評価等による改善状況の検証を基にさらなる自己点検・評価を行い、課題や改善点を認識した場合は、関係部局等にフィードバックして改善を促している。</p>
④-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
【管理・運営面】 大学機関別認証評価を万全の体制で進めるため、評価センターの事務を処理している総務・企画部総務課に、重点配置により事務職員1名を増員した。また、評価センター運営委員会法人評価専門部会に委員5名、オブザーバー2名を加え、第2期中期目標期間評価への体制を整備した。	
【達成状況総括】 全ての目標を達成している。大学機関別認証評価における部局の取組の収集と、部局現況分析評価における自己点検を、部局が一度の自己点検で行えるよう、2つの時期を合わせて実施するよう取り計らったことは、効率的で負担軽減を図ったものであり中期計画にも沿った取組であった。大学機関別認証評価における自己評価書の作成は、大学全体及び学部・研究科での取組の自己評価を行い、全体調整の段階まで進めることができた。 さらに、12月17日開催の「第2期中期目標期間における評価業務説明会」(参加者63名)での現況分析評価の要点等の共有や、3月14日開催の大学評価・学位授与機構の鈴木賢次郎教授等を招いての「大学機関別認証評価等に関する訪問説明会」(参加者67名)による大学設置基準等に沿った自己点検の必要性など、学内全体で部局を含めて情報共有を図れたことは大きな成果であった。また、これらの説明会を通じて、各部局等における自己評価能力を向上させ、教育の内部質保証システム構築を学内全体に啓蒙させる好機となった。	
【次期改善点等】 平成26年7月末に部局から現況分析評価報告書が提出される予定であり、部局と大学執行部との意見交換会における活用や、自己改善の促進方法等を検討する必要がある。 また、現況分析評価や大学機関別認証評価において収集した資料を有効活用し、第2期中期目標期間評価でも必要となる資料を、効率よく整理できる体制を検討する。	